

一般会計決算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、9月11日に産業建設分科会を開催しました。

## 認定第1号平成30年度総社市一般会計歳入歳出決算認定について

### ～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、きびじつるの里の在り方について、管理方法や経費の面で以前から指摘をしているが、妥当でないため、認定できないと異議がありました。

### ～質疑～

問：ため池の維持管理だが、修繕や草刈等の要望の状況はどうか。今後はどう考えているのか。

答：平成26年以降に124件の要望があり、現在約50件が未実施である。限られた予算の中ですべてには対応できていないのが現状であるが、優先順位をつけてやっていきたい。平成30年7月豪雨の災害を受けて国の防災重点ため池の要件の見直しがあり、今後、地元の方とワークショップを行い、ハザードマップを作っていく。

問：平成30年7月豪雨で、指定ゴミ袋の作成業者が被災し、他社が指定ゴミ袋を生産したようだが、ゴミ袋の大きさや厚み、質が変わったが認識しているのか。また、外国人のゴミ出しの対応状況はどうか。

答：指定ゴミ袋は、緊急的に一時期、中国産のものを使っていた。あくまで緊急措置であった。質感は違っていたと思う。外国人のゴミ出しの対応は、5箇国語で案内していて、ホームページにも載せている。最近、ベトナム人が増えていて、マンション等で数件苦情があったため、個別にベトナム語のチラシを配布している。

問：総社カルチャーセンターは老朽化し修繕費用がかかるが、どのように長寿命化を図るのか。旧堀邸は、毎年修繕費用が上がっているがどうか。老朽化して危険な建物を貸しているのか。また、何かあった場合の責任はどうか。

答：総社カルチャーセンターは、公共施設のファシリティマネジメントや個別施設計画で検討することになる。旧堀邸は、古民家として商店街筋の活性化のため活用している建物であり、専門家の意見も聞きながら今後について考えていきたい。修繕費用は、平成19年度以降で、約2,200万円かかっている。建物は、市の財産であるので、不具合があれば、市に何らかの責任があると考えている。建物に危険なところがあると認識しており、何か方策を考えないといけない状況である。

問：雇用の確保のため就職面接会を3回実施しているが、実際に雇用に繋がった人は何人いるのか。高校の先生と企業が対象の産業事業説明会を実施しているが、高校生が地元就職しているのか。

答：就職面接会については、参加企業に聞き取ると、新規大卒者の内定が４人、パートが１０人の採用に繋がっている。高校生については、地元企業への就職状況は把握していない。高校生に対しては、地域の課題解決プロジェクトとして岡山県教育委員会や高梁川流域の自治体とも協力して、地元企業の就職促進を考えていく。小学生、中学生、高校生、保護者も巻き込みながら、地元企業のいいところを知ってもらうように取り組む。